

令和 8(2026) 年度東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻修士課程入学志願者案内

1. 出願資格

入学志願者は大学院出願資格（詳細は工学系研究科修士課程学生募集要項を参照）を有していなければならない。ただし、その専門分野および資格取得年次は問わない。
なお、令和 8（2026）年度の修士課程の入試は年 1 回でここに示される試験だけである。

2. 希望指導教員と出願書類について

大学院入学者は指導教員のもとで研究を行うので、入学志願者は研究の指導を希望する教員名（第一希望、第二希望、第三希望、各 1 名ずつ）を、3～4 ページに示す指導教員の一覧から選択し、別紙 1・A 欄に記入すること。別紙 1～4 は出願時に、他の出願書類と共にアップロードすること。

建築学専攻の受験には以下を提出する必要がある。(1)、(2) については、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出すること。

(1) 別紙 1 の A 欄には希望指導教員を、B 欄には専門課題 II で選択する群に○を記入すること。また、別紙 2～4 に研究計画、受入研究室の選定理由、過去の研究／設計歴について記載すること。受入研究室の選定理由においては希望する教員すべてについて記載すること。

(2) 「英語能力試験の成績証明書」：英語能力は受験者の提出する TOEFL iBT、または TOEFL iBT Home Edition の公式スコアで評価する。スコアの提出方法は、工学系研究科が配布する「大学院入学試験外国語試験（英語）TOEFL スコアの提出について」の指示に従うこと。スコアの提出期限は 2025 年 8 月 8 日とする。提出するスコアは 2023 年 9 月以降に受験したものに限る。

3. 募集人員と入学時期

2026 年度の建築学専攻・修士課程の募集人員は 32 名である。なお、建築学専攻では、入学後の研究指導が特定の教員に偏ることを避けるため、教員一人当たりの受入人員に制限を設けている。合格者の入学時期は、通常、2026 年 4 月である。なお、工学系研究科修士課程学生募集要項にも記述があるが、2025 年 9 月までに大学を卒業あるいは卒業見込みであれば、2025 年 10 月に入学することが可能である。ただし、外国籍の入学志願者は、在留資格認定証明書 COE の発行が遅延する傾向にあることから 2026 年 4 月入学を強く勧める。

4. 選抜方法

以下に示す筆記試験及び口述試験を行い、受入予定者を選抜する。

(A) 筆記試験

試験科目	試験時間	適 用
1. 外国語※ ¹		英語 TOEFL の公式スコアを所定の方法で提出。
2. 専門科目※ ¹		
①専門課題 I	3 時間	①は建築学に関する基礎的な課題である。
②専門課題 II	3 時間 または 4 時間	②については次の 4 群の中からいずれか 1 群を選択して解答する。選択する群を、出願時に別紙 1 の B 欄に記入すること。 第 1 群 建築設計課題 (4 時間) 第 2 群 建築計画・建築史・構法系課題 (3 時間) 第 3 群 建築環境系課題 (3 時間) 第 4 群 建築構造・建築材料系課題 (3 時間)

※1 外国語・専門科目（専門課題Ⅰ・専門課題Ⅱ）のすべてを受験しないと失格になる。

(B) 口述試験

一人当たり数分程度の面接を行う。面接の使用言語は日本語または英語とする。口述試験を受けない場合は失格とする。

5. 試験日程

試験科目		日 時	携行品 [§]	備考（重要）
(A) 筆記試験	英語			スコア提出
	専門課題Ⅰ	8月26日（火） 9:00～12:00	鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、コンパス、三角定規	
	専門課題Ⅱ 第1群	8月27日（水） 9:00～13:00	専攻 Web サイトを確認のこと	
	専門課題Ⅱ 第2群 第3群 第4群	8月27日（水） 9:00～12:00	鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、コンパス、三角定規	
(B) 口述試験（面接）		8月29日（金） 9:00～14:00		集合場所・時間等の詳細は本専攻の Web サイト（ https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/ ）に掲載する。

※ 試験開始後 30 分を過ぎての入室は、いかなる事情があっても認めない。

§ 携行品および試験時に持ち込み可能なものリストは専攻 Web サイトを確認すること。

6. 注意事項

- (1) 入学試験受験上の注意（本専攻の Web サイトに掲載（<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>）をよく読んでおくこと。
- (2) 受験票の写真で試験時に本人照合を行う。本人と確認できない場合は、失格となることがある。写真を修正した場合は失格とする。
- (3) その他、本専攻 Web サイト（<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>）で、試験会場ならびに試験での携行品を含む関連情報を周知するので、随時確認すること。

7. 問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻
 E-mail : exam@arch1.t.u-tokyo.ac.jp

建築学専攻の指導教員と専門領域の一覧（教員名は五十音順）

一覧に記載されている教員は受入れが可能であるが留意事項のある教員については事前に問合せを行い、指導方針について確認を行うこと。

教員名	所属	系	専門領域
赤司泰義 教授	工・建	環境	建築エネルギーシステム、建築熱環境、運用・管理、コミッションング
浅井竜也 准教授	生 研	構材	耐震工学、耐津波設計、鉄筋コンクリート構造
池田靖史 特任教授 ^{*1}	工・建	意匠	建築情報学・建築設計
糸井達哉 准教授	工・建	構材	リスク・レジリエンス工学、荷重論、地震工学
今井公太郎 教授	生 研	計画	建築計画・建築設計・都市解析
伊山 潤 教授	工・建	構材	鋼構造・耐久性工学・地震波動解析
岩船由美子 教授	生 研	環境	エネルギーシステム評価
海野 聡 准教授	工・建	歴史	日本建築史・東アジア木造建築史・文化遺産
大岡龍三 教授	生 研	環境	都市・建築環境工学(熱・空気・エネルギー)・サステナブルエンジニアリング
大月敏雄 教授	工・建	計画	建築計画・住宅地計画・ハウジング・住宅政策・復興デザイン
岡部明子 教授	工・建	意匠	建築・都市環境デザイン、建築まちづくり
加藤耕一 教授	工・建	歴史	西洋建築史・近代建築史・建築理論
川口健一 教授 ^{*1}	生 研	構材	構造解析・空間構造工学
川添善行 准教授	生 研	意匠	建築意匠・風景論
菊本英紀 准教授	生 研	環境	都市・建築環境、環境制御工学
楠 浩一 教授	震 研	構材	耐震工学・強震観測・鉄筋コンクリート構造
腰原幹雄 教授	生 研	構法	木質構造・建築構法
小山 毅 特任准教授 ^{*1}	工・建	構材	計算力学・耐水構造
榎藤智之 准教授	工・建	構法	建築生産・建築構法
斎藤 豪 特任准教授 ^{*3}	工・建	構材	セメント化学・資源循環型建築材料・建築材料化学・分析化学
坂本慎一 教授	生 研	環境	建築音響・騒音制御
佐久間哲哉 教授	工・建	環境	音環境・建築音響・騒音制御・居住環境
田尻清太郎 准教授	工・建	構材	耐震工学・鉄筋コンクリート構造
舘 知宏 教授	総文研	構材	構造幾何学、コンピューショナルデザイン
谷口景一郎 特任准教授 ^{*2}	工・建	環境	建築環境エンジニアリング、建築環境シミュレーション
豊田啓介 特任教授 ^{*2}	生 研	意匠	デジタル空間記述・コモングラウンド
中埜良昭 教授 ^{*1}	生 研	構材	耐震工学、鉄筋コンクリート構造、地震・津波防災
野口貴文 教授 ^{*1}	工・建	構材	建築材料・資源循環・低炭素・耐久設計・維持保全・建築防火
林 憲吾 准教授	生 研	歴史	アジア都市・建築史、アーバンサステイナビリティ学
藤田香織 教授	工・建	構法	木質構造・伝統構法
本間健太郎 准教授	生 研	計画	建築計画・空間デザイン数理
本間裕大 准教授	生 研	計画	建築・都市計画、交通工学、社会システム工学、数理最適化
毎田悠承 准教授	震 研	構材	耐震工学・鉄筋コンクリート構造・損傷制御
前 真之 准教授	工・建	環境	建築環境 特にサステイナブル住宅のデザインと要素技術開発
松田雄二 准教授	工・建	計画	建築計画、医療福祉施設計画、ユニバーサルデザイン
丸山一平 教授	工・建	構材	資源循環・低炭素材料開発、極限環境材料開発、保全工学
宮田翔平 特任講師 ^{*2}	工・建	環境	スマートビルシステム、建築設備
安原 幹 准教授	工・建	意匠	建築意匠・建築設計

教員名		所属	系	専門領域
山田 哲	教授	工・建	構材	鉄骨構造・耐震工学・免震構造・制振構造
横山ゆりか	教授	総文研	計画	建築計画、環境行動・環境心理学、設計方法論
吉岡英樹	准教授	工・建	構材	建築防火工学、都市防火

(注) 所属 工・建：工学系研究科建築学専攻 本郷
震 研：地震研究所 弥生
生 研：生産技術研究所 駒場Ⅱ
総文研：大学院総合文化研究科 駒場Ⅰ
系 構材：構造・材料系

(留意事項)

*1 2026 年 3 月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定

*2 2028 年 3 月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定

*3 2029 年 3 月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定

※1 2027 年 3 月退職予定 関連教員による指導継続の予定

A 研究の指導を希望する教員を「令和 8(2026)年度東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程入学志願者案内」3～4 頁の表から最大で 3 名選択し、以下の欄に教員名を記入すること。

Applicants must select up to two prospective academic supervisors from the table on pages 3 - 5 of "2026 Guide to the Master's Program Entrance Examination Department of Architecture, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo" and write their names in the following table.

	第一希望 1st choice	第二希望 2nd choice	第三希望 3rd choice
教員名 Academic supervisor's name			

B 希望する群に○を記入すること。 Fill in a "○" for the desired group.

入学志願者案内 4. 選抜方法の(A)筆記試験参照 Refer to 4 (A) in the guide

専門課題Ⅱ Specialized Subject II	第 1 群	第 2 群	第 3 群	第 4 群

(建築学専攻) (Department of Architecture)

この別紙の枚数は厳守すること。

The number of sheets should not be changed.

【研究計画】【Research Plan】

(1) 研究の背景 (Background of the research)

修士課程学生として取り組む研究の背景について、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。既往文献を用いて研究課題がどのように重要で新規性があるかを明快にしてください。必要に応じて適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。受入研究室の選定理由も記載ください。複数ある場合は複数の選定理由を記載してください。なお、本項目は1頁に収めてください。

Please provide the background of the research you will undertake as a master's student, including the competitive research situations and challenges in the related field and how you came up with the idea for this research plan. Please clearly the importance and significance of the research topic with a critical review on the existing literature. Please provide a clear description of the research theme by using conceptual diagrams, if necessary. Please provide the reasons(s) for selecting the host laboratory(ies). Please limit this section to one page.

【研究計画】(続き)【Research Plan (Continued)】**(2) 研究目的と実施内容 (Research Objectives, Plan, and Actions)**

前述の研究の背景を受けて、目的と実施する内容を明確に記載してください。1)研究目的、研究方法、研究内容、2)作業仮説とその重要性、独創性、3)全体目標のうちどこまでを明らかにするのか、4)研究目的達成時にどういった影響を研究分野および社会に及ぼすかの見通し、を記載してください。所属予定の研究室において先行研究がある場合には、受験者が果たす役割、境界条件がわかるように記載してください。学習・研究計画の2年間のタイムスケジュールも記載してください。受入研究室ごとに記載することも可能です。本項目は1頁以内に記載してください。

Based on the aforementioned research background, 1) clarify the research objective and goals, research theme, and describe the research methods used to achieve this theme in detail, 2) describe the research working hypothesis, the uniqueness, originality, and research significance about your research compared to previous research, 3) clarify the goals of your doctoral coarse research, and 4) what impact you expect on the research field and society when you achieve your research goals. If there is previous research in the laboratory to which the candidate will belong, please describe your roles. Please also include a two-year schedule of your study and research plan. You can describe separately by the laboratory. Please limit this section to one page.

【過去の研究／設計歴】 Abstract of your past research/design experiences

修士で学習／研究することに関連した、過去の研究履歴（卒業研究など）や設計事例などを記載し、ご自身の能力をアピールしてください。取り組みが途中のものであっても、取り組み内容などを記載してください。本項目は 1 頁以内に記載してください。

Please describe your past research experience (such as your undergraduate thesis) and design projects related to your studies/research at the master's level, highlighting your skills and abilities. Even if the project is still in progress, please describe the details of your work and involvement. Please limit this section to one page.